

「基礎から学ぶ脂質の話 ～動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年度版の改訂を踏まえて～」

座長 : 二宮 早苗 (日本赤十字社 松山赤十字病院 検査部)  
演者 : 小川 徳之 (ミナリスメディカル株式会社 CR 推進部)

「基礎から学ぶ脂質の話 ～動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年度版の改訂を踏まえて～」

©小川 徳之

ミナリスメディカル株式会社 CR 推進部

【はじめに】厚生労働省の統計によると、2021 年の日本人の死因第 1 位は悪性新生物 (26.5%)、第 2 位は心疾患 (14.9%)、第 3 位は老衰 (10.6%)、第 4 位は脳血管疾患 (7.3%) となっており、第 2 位と第 4 位の心疾患と脳血管疾患を合わせると死因の 2 割強を動脈硬化性疾患が占めている<sup>1)</sup>。

本セミナーでは、動脈硬化性疾患と関連が強い脂質検査に関する基礎的な内容と、動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年版の改訂点について説明する<sup>2)</sup>。

【脂質の基礎】水に不溶の脂質はリポ蛋白構造をとることにより血中に存在し、そのリポ蛋白は比重によって主に HDL、LDL、VLDL、カイロミクロン (CM) の 4 種類に分類され、比重の高いリポ蛋白ほどサイズが小さい構造となっている。このリポ蛋白の代謝は主に 3 経路あり、CM が肝臓に取り込まれる食事由来の外因性経路と、肝臓で生成された VLDL が LDL へと異化し細胞にコレステロールを運ぶ転送系の内因性経路、また HDL が細胞からコレステロールを引き抜き肝臓へ戻す逆転送系の内因性経路がある。HDL は余分なコレステロールを回収し動脈硬化を引き起こしにくくするため「善玉リポ蛋白」と呼ばれている。リポ蛋白代謝が何らかの要因により異常をきたした状態が脂質異常症である。

【動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年版の改訂点】日本動脈硬化学会は 1997 年に高脂血症診療ガイドラインを発表して以来、その後公表された治療や疫学などに関する多くのエビデンスを取り入れ、5 年毎の改訂を重ねている。2022 年版では、下記の点を含めた改訂が行われた。

- ① 随時 TG の基準値の設定
- ② 絶対リスク評価法とエンドポイントの変更
- ③ 糖尿病患者の LDL-C の管理目標値の区分
- ④ 二次予防対象者の変更、および厳格な LDL-C 管理対象者の変更
- ⑤ その他の追加された内容 (・潜在性動脈硬化・非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD)、非アルコール性脂肪肝炎 (NASH)・慢性腎臓病 (CKD) のリスク管理・続発性脂質異常症など)

◆参考文献 1) 厚生労働省：令和 3 年 (2021) 人口動態統計月報年計 (概数) の概況

2) 日本動脈硬化学会 (編)：動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年版。日本動脈硬化学会, 2022

◆製品に関するお問い合わせ ミナリスメディカル株式会社 CR 推進部学術グループ：03-6219-7606

◆資料請求について ミナリスメディカル株式会社 中国四国営業所：082-261-9880